

[学会] 第1104回 千葉医学会例会
千葉大学大学院医学研究院腫瘍内科学例会

日 時:平成17年1月29日(土) 9:00~16:18

場 所:ホテル サンガーデン

1. 腎不全予防対策:肥満是正の効果—アディポネクチンの視点から—

土田弘基, 鴫田純一, 山本駿一
(船橋二和・慢性血管合併症研究所)

生活習慣病を基礎にした末期腎不全患者が増加し続けている。これは脂肪細胞からのアディポサイトカイン(特にアディポネクチン)分泌異常が主因である。具体的症例を示し,尿異常,肥満,低アディポネクチン血症を認める高校生に集学的介入をすることにより腎不全患者を予防することが出来る。

2. Von Recklinghausen病に合併した巨大後腹膜腫瘍の1例

宮川 薫, 高橋正憲, 鶴飼伸一
中堀 進 (千葉県立佐原)

症例は43歳男性,主訴は腹部膨満感。各種画像検査で後腹膜腫瘍,腸腰筋腫瘍を認めた。術中空腸に3cm大の壁外性腫瘍認め,同時に切除した。病理組織学的所見及び特殊免疫染色法で3ヶ所の腫瘍はいずれもgastrointestinal stromal tumor (GIST)と診断された。Von Recklinghausen病に合併する消化管非上皮性腫瘍は大部分が神経原性腫瘍であるが,GIST合併例は非常に稀であるので報告する。

3. 急速進行性糸球体腎炎の治療後に両側腎へのびまん性浸潤を伴う悪性リンパ腫を発症した1例

長谷川茂, 家里憲二
(千葉社会保険・腎内)
中村広志, 丸 泰司, 藤田淳一
(同・内科)
木村邦夫, 森 義雄, 西荒井宏美
三橋裕美子(同・健康管理センター)
近藤洋一郎 (同・臨床検査病理)

症例は59歳の男性。00年にRPGNで入院(Cre8.7),腎生検でCrescentic GNと診断し,PSL 60mgとCPA 50mg(3週間のみ)で治療,Cre1.6まで改善した。03年

6月Cre2.7と上昇,WBC15000と増多がみられた。精査の結果,回盲部腫瘍の生検よりmantle cell lymphomaと診断。04年1月にはCre3.1と上昇,CTにて両腎の腫大(長径12.8cm)がみられ腎再生検を施行したところlymphoma cellのdiffuseな浸潤を認めた。同年2月よりRituximab併用CHOP療法を6コース行い腎サイズの縮小をみたが,腎機能の改善はみられなかった(Cre4.1)。なお,初回腎生検組織の再検討により,大型のリンパ濾胞様の病変の存在が明らかになり,mantle cell lymphomaか否かの検討中である。

4. 心タンポナーデにて発症し,多発筋炎を併発した悪性リンパ腫の1例

川俣豊隆, 小杉信晴, 山田伸子
橋本直子, 橋本淑子(沼津市立)

今回,心タンポナーデにて発症し,他に病変の認められなかった,悪性リンパ腫の中でも稀とされるprimary cardiac lymphomaに,更に多発筋炎を併発した貴重な1症例を経験したので報告する。放射線療法,化学療法にて加療するも,心のう液貯留などの改善は認められず,治療抵抗性であった。

5. 食道アカラシアに対する内視鏡治療の検討

中本晋吾, 坂井雄三, 田村 玲
大島 忠, 安藤 健, 加藤佳瑞紀
笠貫順二, 久満董樹(船橋中央)

食道アカラシア3例に対しバルーン拡張術を施行。症例は31~52歳の男性,主訴は食物の通過障害,Spindle 2例,Flask 1例,grade II~III,病悩期間2.5~6年。バルーン径40mmのrigiflex balloon dilatorを使用し5psi×2分で計3回施行。治療回数1~2回。全例とも奏効,穿孔例なし。術後観察期間は1~10ヶ月で経過良好。